

横須賀共済病院 RPA 導入報告

法人名 国家公務員共済組合連合会
病院名 横須賀共済病院
職種・所属 事務部
発表者氏名 澤田洋輔
協力者氏名 野間貴衛 畑宏明

【はじめに】

世の中は「働き方改革」のスローガンのもと残業削減などの風潮ではあるが、現実には「仕事量は減らない」という、相反する板挟み状態から抜け出すためのツールとして RPA は期待されている。当院でも 2020 年 4 月より正式採用したので導入・展開・使用事例などを紹介する。

【導入】

働き方改革を目的としている為、業務内容を最も把握している各部署業務担当者にて利用してもらうべく ■極力プログラム知識は必要とせず簡便に操作・作成できるシステム ■ハードウェア・ソフトウェアはスモールスタートから展開できる ■コストを最小限に抑える この3つに重点を置いて選定をおこない、ハンズオンセミナーへの参加などを経て NTT アドバンステクノロジー社が提供する RPA ソフトウェア、WinActor（ウィンアクター）を採用した。

【展開】

スモールスタートであるが、業務内容は幅広く募るべく、事務部及び看護部に対しヒアリングを実施し、業務改善が見込めるとして手上げた7部署にて試験展開、後に8部署となった。限られたライセンスを有効活用すべく、端末の利用は遠隔操作で展開することにした。また、外部データを効率よく取り込むことや実行時の予期せぬエラー発生時に、いち早く対応できるよう、グループウェアを用いてデータのやりとりや、端末の利用予約などをおこない情報共有をした。

RPA 運営会議として、毎月1回会議を開催し、シナリオ作成の進捗状況・実行時の不具合などを全員で振り返り、改善点を共有しながら取り組んだ。

【使用例】

日報データ、経理業務、受付、病理、がん登録などに使用。今回はこの中の一部を実際に稼働している映像も含めて紹介する。

【結果・考察】

RPA を導入することで単純作業の時間が減り、シナリオ作成を行うことで各部署にて個別に行われていた業務内容の見える化が実現、また職員の知識は向上してきているため、さらなる上位研修の受講も検討してゆく。しかしながら、現時点では費用対効果（定量的な結果）として大きな成果を出すには至っていない。そのため RPA をさらに拡大し効果を増大すべく各部署にヒアリングをして、対象業務のあぶりだしや複数部署での重複作業がないかを確認し、業務整理も同時におこないながら、更なるタスクシフトの推進（ダブルタスクシフト）に向け継続して取り組む。